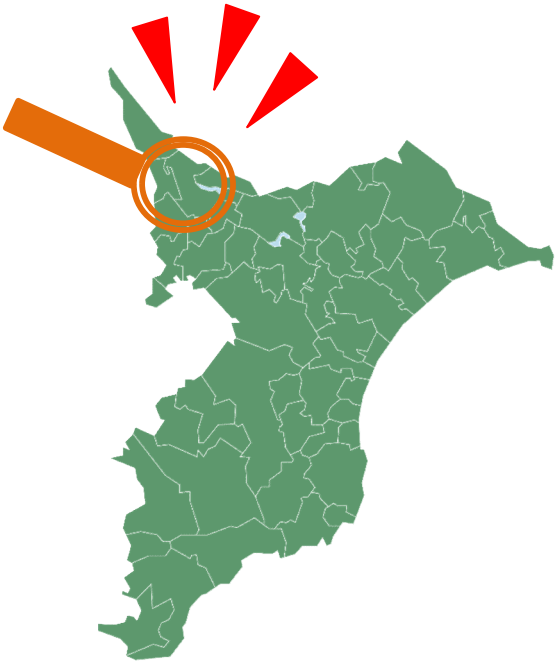
２０２５・５

柏の景気情報

令和７（２０２５）年５月の調査結果



柏　商　工　会　議　所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当）　柏商工会議所 中小企業相談所
〒277-0011　千葉県柏市東上町７－１８
ＴＥＬ　：　０４－７１６２－３３０５
ＦＡＸ　：　０４－７１６２－３３２３
ＵＲＬ　：　http://www.kashiwa-cci.or.jp
Ｅ－ｍａｉｌ　：　info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和７年５月の調査結果のポイント）

★調査結果のまとめ

回答期間：令和７年５月20日～令和７年６月４日　調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数67

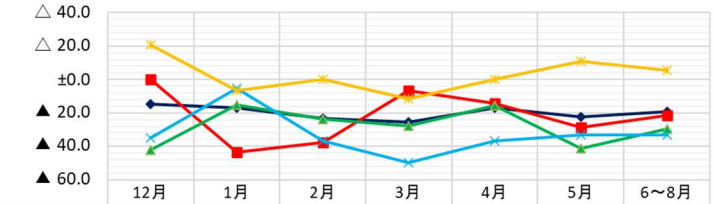
各業種ごとに抱える課題は多種多様。依然として継続するコスト上昇に採算悪化の一途を辿る。

５月の全産業合計の業況ＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲２２．３（前月水準▲１７．１）となりマイナス幅が８．６ポイント拡大した。

各業界、コスト上昇継続に懸念のコメント多数。

製造業・卸・小売業では、売上は持ち直すも仕入値、各コストの値上げと賃上げで採算悪化は継続。一方、建設業では、公共事業関連業務での好転が見込まれるが、アメリカ関税措置等の国際情勢の動きによる資材高騰への影響を懸念している。

柏の景気情報・産業別業況DI



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6～8月
全産業	▲ 14.6	▲ 17.1	▲ 23.2	▲ 25.7	▲ 17.1	▲ 22.3	▲ 19.4
建設	±0.0	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 6.6	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 21.4
製造	▲ 42.1	▲ 15.0	▲ 23.5	▲ 27.7	▲ 15.7	▲ 41.1	▲ 29.4
卸・小売	▲ 35.0	▲ 5.2	▲ 36.8	▲ 50.0	▲ 36.8	▲ 33.3	▲ 33.3
サービス	△ 21.0	▲ 6.6	±0.0	▲ 11.7	±0.0	△ 11.1	△ 5.5

★業種別の動向

前月と比べたＤＩ値の動き　↗ 改善　➡ 横ばい　↘ 悪化

建設業

「平均的な売り上げであったが、当面は大型公共事業関連業務で好転がみこまれる。国内の食料・エネルギー問題や国際情勢の不安定化に伴うコストの上昇はマイナス要因に注意が必要な状態が当面続くことが懸念される。一方で自然災害への企業として備えにも気を配る必要を感じている。」（地質調査）「畳縁販売が好調」（畳工事請負・畳製造販売）

製造業

「トランプ関税の影響で先行き不透明な為に、設備投資の先延ばしが発生している。大幅な賃上げにより企業の採算悪化が見込まれる」（一般産業用機械・装置製造）「売上は持ち直しているが、原料や副材料等の値上げにより、利益率は鈍い状況。全社挙げて、小さいところから地道に改善活動を実施」（その他の鉄鋼）「法改正に伴い就業規則の見直しを実施。（介護休暇等）合わせて従業員へ説明会を行う。介護で退職をしなくていいように会社も従業員も発信していこう」（金属製品）

卸・小売

「飲食店は仕入れ値の高騰が止まらず、採算の悪化傾向が続く。値上げにも限界」（その他各種商品小売）「売上は微増、一点単価の上昇は落ち着きつつあり、買上点数は回復傾向である。人件費上昇は吸収できつつあり、退職者のカバー（新規採用）も進んでいる。思った以上に気温が上がらず、前倒しにしている初夏物の動きは鈍いがようやくGW明けに動きが出ている。柏市は3月に人口が微減したが4月・5月で大幅増加し、累計3ヶ月で1000人を超える増加である。足元の人口も増加しており、今後3ヶ月は攻めの経営に転化していきたい」（大型小売店）

サービス業

「客単価は上昇しているが来場は微減。消耗品価格などが上がり続けており利益が圧迫されている。光熱費やガソリンに対するさらなる補助金を望みます。」（ゴルフ練習場）「GW明けからの集客落ちは著しい印象がある。また週末夜の利用減少と駅前人口の減少は著しく低下している気がする」（専門料理店）「資材の高騰や発注価格の値上がりが続いている。一般の不動産購入意欲も減少気味だが、リフォーム需要は安定してある。金利が上がっているので、様子見のお客様が多くなってきている」（不動産管理）「管理コストの上昇に見合った賃料の増額を更新毎に御入居さんにお願いするようにしている」（不動産賃貸・管理）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI－LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲２２．３に対し、「ＣＣＩ－ＬＯＢＯ」が▲１８．０で、柏のほうがマイナス幅が４．３ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業である。

柏商工会議所
The Kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
	DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 22.3	▲ 28.5	▲ 41.1	▲ 33.3	11.1
CCI―LOBO	▲ 18.0	▲ 13.8	▲ 22.3	▲ 25.2	▲ 8.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 11.9	▲ 28.5	▲ 41.1	±0.0	16.6
CCI―LOBO	▲ 5.3	▲ 9.2	▲ 7.3	▲ 9.0	5.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 23.8	▲ 28.5	▲ 58.8	▲ 27.7	16.6
CCI―LOBO	▲ 17.9	▲ 16.5	▲ 22.5	▲ 21.0	▲ 12.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 62.6	▲ 42.8	▲ 70.5	▲ 72.2	▲ 61.1
CCI―LOBO	▲ 64.2	▲ 71.3	▲ 58.3	▲ 67.0	▲ 67.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	19.4	50.0	±0.0	5.5	27.7
CCI―LOBO	20.5	34.9	11.7	15.9	26.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 13.4	▲ 14.2	▲ 41.1	▲ 16.6	16.6
CCI―LOBO	▲ 11.2	▲ 3.7	▲ 17.2	▲ 16.1	▲ 7.4

ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

商工会議所早期景気観測（5月速報）

調査期間：2025年5月15日～21日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況ＤＩは、大型連休中の消費が振るわず、ほぼ横ばい

先行きは、米国関税措置への懸念拭えず慎重な見方

5月の全産業合計の業況ＤＩは、▲18．0と前月比からプラス0．5ポイント。

建設業では、設備投資をはじめとした民間工事の持ち直しで改善した。小売業では、長引く消費の低迷に加え、為替の円高方向への推移でインバウンド需要にも落ち着きが見られ、悪化した。

その他の業種では、好材料はありつつも、消費低迷、米国関税措置への懸念、コメ価格の高騰などが足かせとなり、ほぼ横ばいにとどまった。

設備投資需要は堅調に推移しているが、米国関税措置が足かせとなっている。コメ価格を含む物価高により、消費マインドも低迷している。今年の大型連休はこうした状況に日並びの悪さが加わったことで、消費が例年と比べると振るわず、中小企業の業況はほぼ横ばいにとどまった。

先行き見通しＤＩは、▲17．4と今月比からプラス0・6ポイント

高い水準での賃上げが続いており、消費マインドの改善を下支えすることが期待される。為替円高方向へのシフトや、原油価格の下落といった好材料の動きも見られる。

一方、コメ価格の高騰など、物価上昇は継続する見込みであるほか、人手不足の状況にも改善の兆しは見えない。また、先月から引き続き米国関税措置が日本経済に与える影響を懸念する声が多数聞かれるなど、今後の動向の不透明さが拭えず、先行きは慎重な見方となっている。

【建設業】

「民間工事の受注が多くなってきているように感じる。コスト増加分の価格転嫁についても、徐々にではあるが進んでいる」（一般工事業）

「生コンクリート、骨材、アスファルトなど、幅広い品目の建築資材で価格高騰が続いている。労務費も上昇しているほか、人手不足で社員の高齢化も進んでいる」（土木工事業）

【製造業】

「現状では受注は堅調に推移しているが、取引先は北米への輸出割合が高いため、トランプ関税の動向によっては自社の受注減につながる恐れもあり、今後の動向を注視している」（民生用電気機械製造業）

「原材料価格上昇分とは別で、労務費上昇分についても取引先に価格転嫁を認めてもらえたので、今後の採算は改善する見込みである」（調味料製造業）

【卸売業】

「コメ価格の高騰が落ち着く気配もなく、仕入価格が上昇している。販売価格を抑えることは難しい状況のため、価格以外の点で自社ならではの独自の強みを訴求できないか検討している」（食料・飲料卸売業）

「アメリカ向け製品を販売する取引先もあるため、トランプ関税がこうした取引先に与える影響を注視している」（紙製品卸売業）

【小売業】

「物価の上昇に賃金の伸びが追いついておらず、消費マインドが悪化した状態が続いていると感じる」（商店街）

「入荷できるコメの量と種類が限られており、顧客のニーズに応えられない。備蓄米についても取引先の卸売業者が扱っておらず、入荷できていない状況である」（米穀類小売業）

【サービス業】

「大型連休では例年ほどの恩恵は受けられなかった。コメを含む原材料価格も高騰しており、採算が悪化している」（飲食店）

「物価上昇による実質賃金の伸び悩みにより、余暇への支出が減っていると感じる。宿泊を伴わない日帰り旅行が増えているように思われるため、物販といった日帰り客向けのサービスを強化する必要があると考えている」（宿泊業）

全国・産業別業況ＤＩの推移

「見通し」は当月水準に比較した向こう3ヶ月の先行き見通しＤＩ

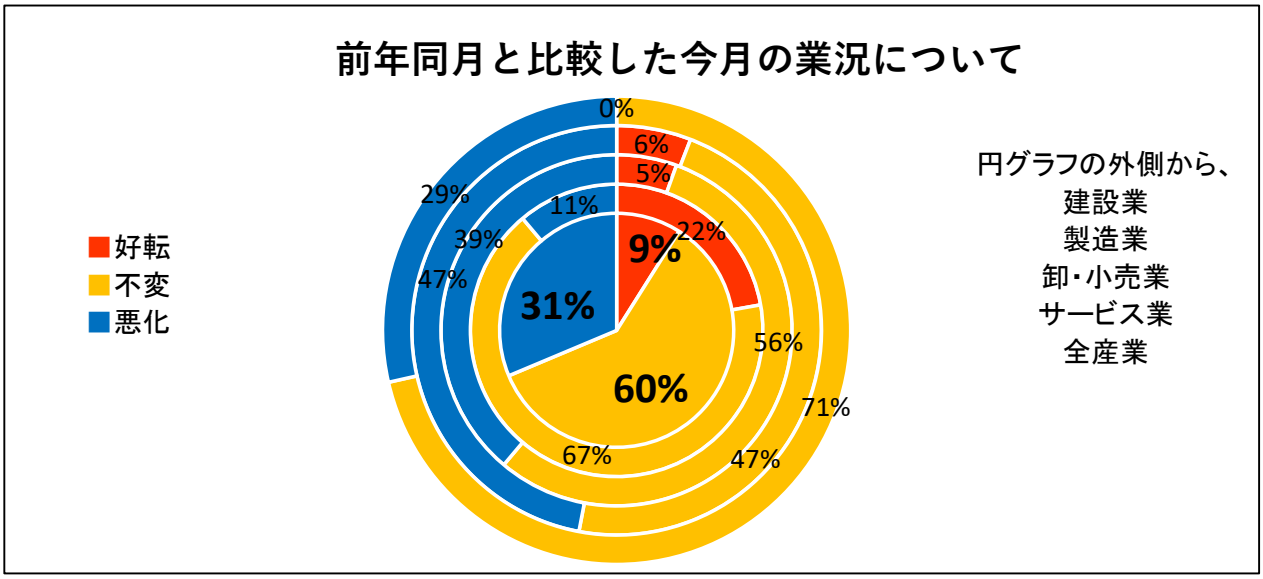
	全産業	建　設	製　造	卸　売	小　売	ｻｰﾋﾞｽ
１２月	▲14.4	▲ 11.3	▲ 21.4	▲ 17.5	▲ 20.2	▲　3.4
１月	▲15.4	▲ 10.6	▲ 20.7	▲ 17.2	▲ 19.7	▲　9.4
２月	▲20.5	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 19.5	▲ 28.5	▲　130
３月	▲19.2	▲ 15.6	▲ 24.7	▲ 17.6	▲ 23.1	▲　13.9
４月	▲18.5	▲ 17.7	▲ 23.0	▲ 23.1	▲ 23.5	▲　23.5
５月	▲18.0	▲ 13.8	▲ 22.3	▲ 23.7	▲ 25.2	▲　8.5
見通し	▲17.4	▲ 15.0	▲ 17.2	▲ 25.8	▲ 23.0	▲　11.0

令和７年（２０２５年）５月の動向

【業況について】

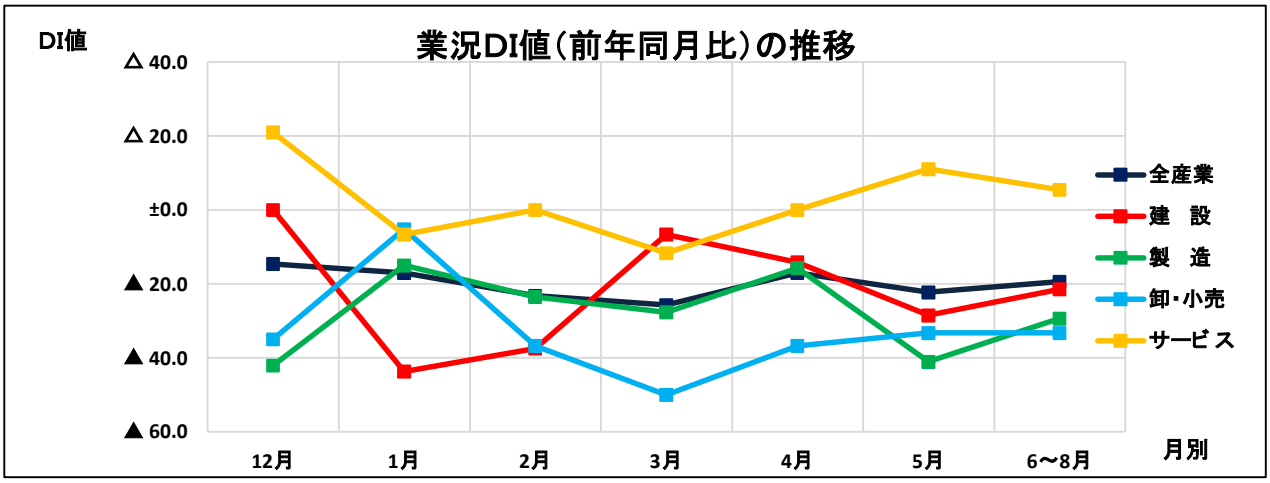
○ ５月の全産業合計のＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲２２．３（前月水準▲１７．１）となり、マイナス幅が５．２ポイント拡大した。

○ 向こう３ヶ月（６月から８月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１９．４（前月水準▲１２．８）となり、マイナス幅が６．６ポイント拡大した。



業況ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

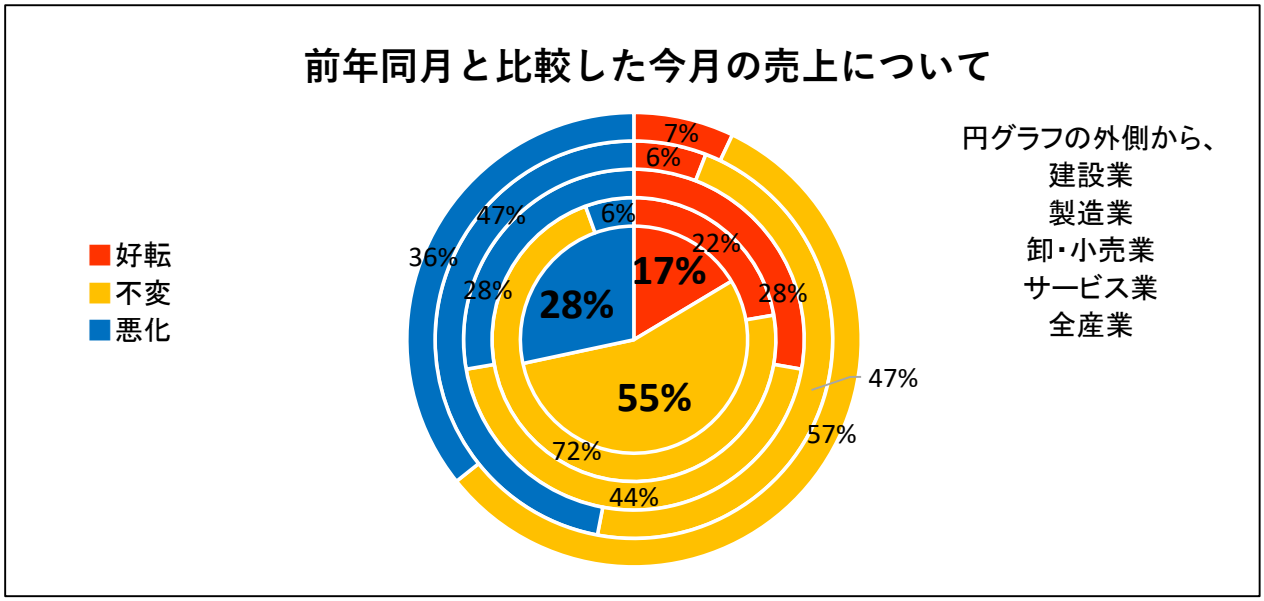
	令和６年 12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月　（　5～7月　）
全産業	▲ 14.6	▲ 17.1	▲ 23.2	▲ 25.7	▲ 17.1	▲ 22.3	▲ 19.4 （　▲ 12.8 ）
建　設	±0.0	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 6.6	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 21.4 （　△ 7.1 ）
製　造	▲ 42.1	▲ 15.0	▲ 23.5	▲ 27.7	▲ 15.7	▲ 41.1	▲ 29.4 （　▲ 31.5 ）
卸・小売	▲ 35.0	▲ 5.2	▲ 36.8	▲ 50.0	▲ 36.8	▲ 33.3	▲ 33.3 （　▲ 26.3 ）
サービス	△ 21.0	▲ 6.6	±0.0	▲ 11.7	±0.0	△ 11.1	△ 5.5 （　△ 5.5 ）



【売上について】

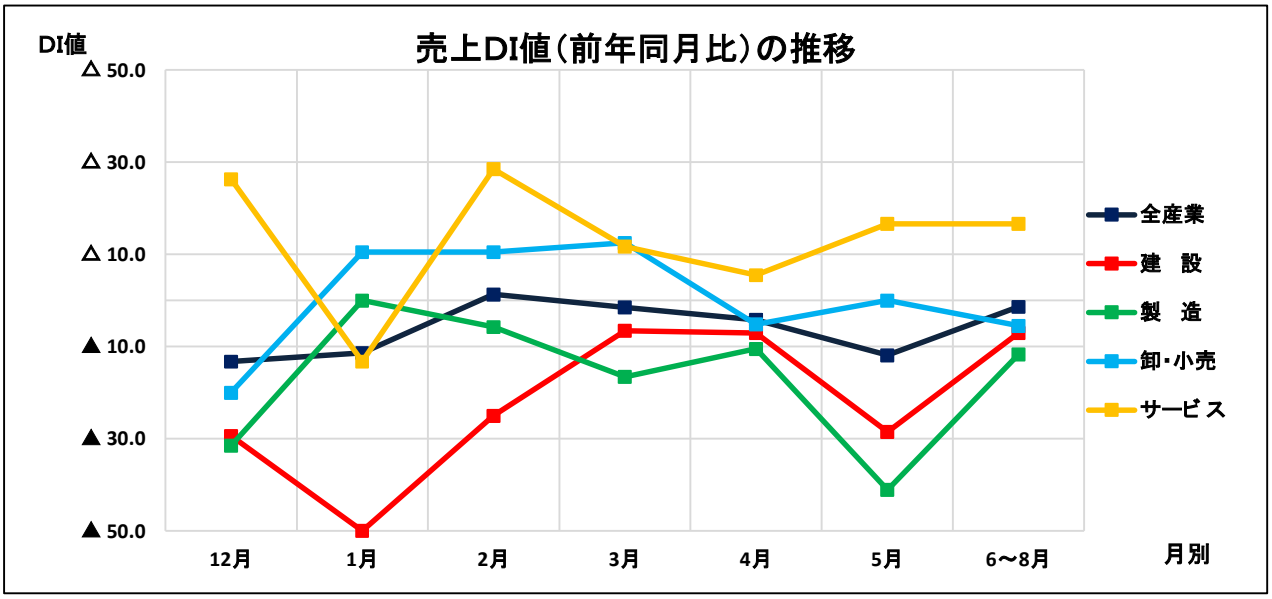
○ ５月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲１１．９（前月水準▲４．２）となり、マイナス幅７．７ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（６月から８月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１．４（前月水準▲１．４）となり、プラスマイナス０となった。



売上ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「増加」の回答割合ー「減少」の回答割合

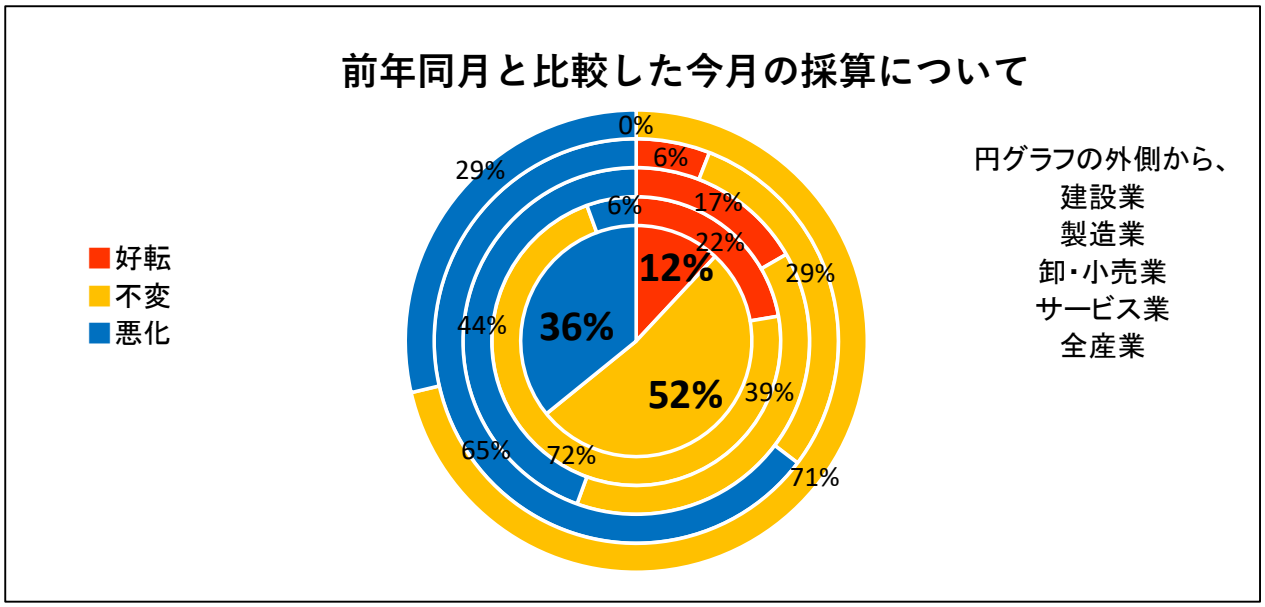
	令和６年 12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月	（ 5～7月 ）
全産業	▲ 13.3	▲ 11.4	△ 1.3	▲ 1.5	▲ 4.2	▲ 11.9	▲ 1.4	（ ▲ 1.4 ）
建　設	▲ 29.4	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 6.6	▲ 7.1	▲ 28.5	▲ 7.1	（ △ 7.1 ）
製　造	▲ 31.5	±0.0	▲ 5.8	▲ 16.6	▲ 10.5	▲ 41.1	▲ 11.7	（ ▲ 26.3 ）
卸・小売	▲ 20.0	△ 10.5	△ 10.5	△ 12.5	▲ 5.2	±0.0	▲ 5.5	（ △ 5.2 ）
サービス	△ 26.3	▲ 13.3	△ 28.5	△ 11.7	△ 5.5	△ 16.6	△ 16.6	（ △ 11.1 ）



【採算について】

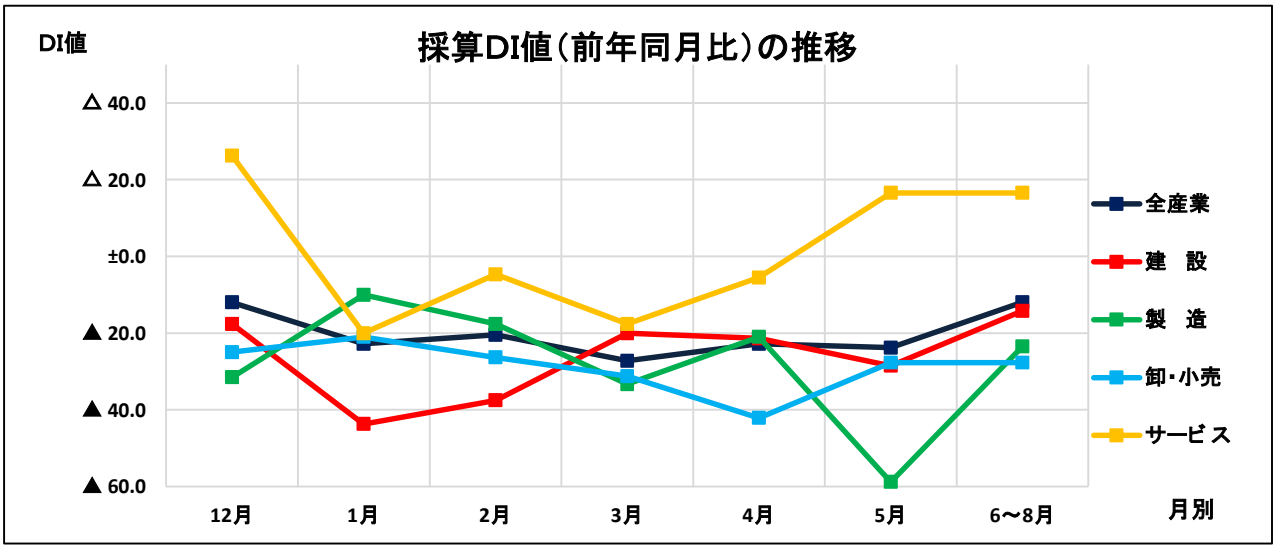
○ ５月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲２３．８（前月水準▲２２．８）となり、マイナス幅が１．０ポイント拡大した。

○ 向こう３ヶ月（６月から８月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１１．９（前月水準▲５．７）であり、マイナス幅が６．２ポイント拡大する見通しである。



採算ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

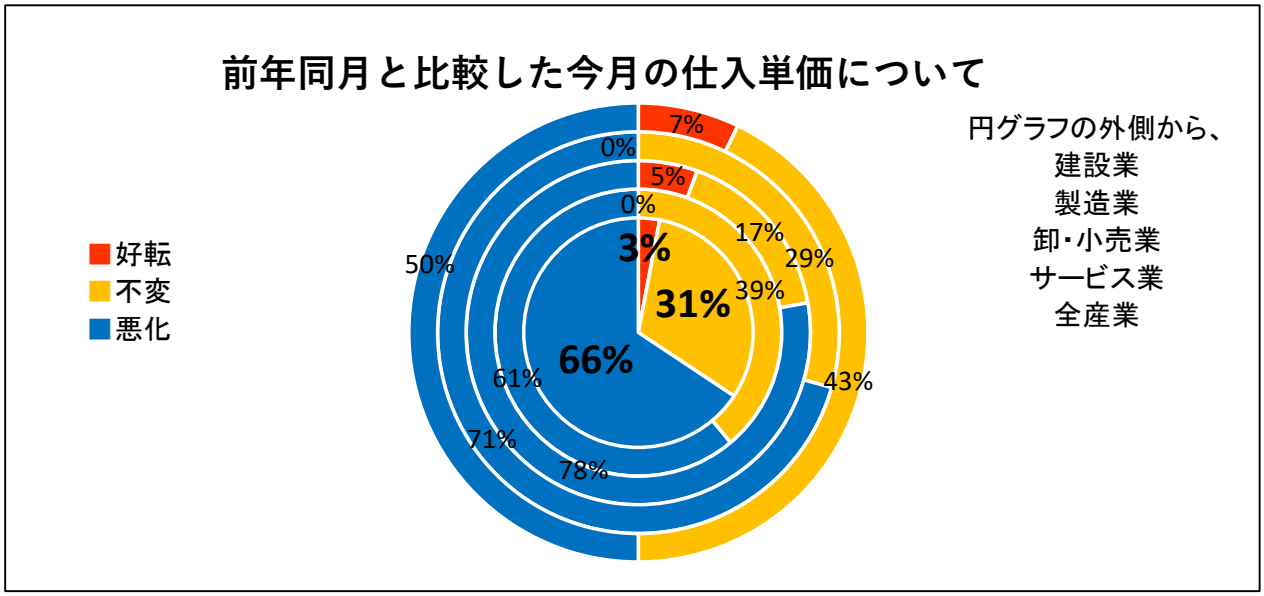
	令和６年 12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月	5～7月
全産業	▲ 12.0	▲ 22.8	▲ 20.5	▲ 27.2	▲ 22.8	▲ 23.8	▲ 11.9	▲ 5.7
建　設	▲ 17.6	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 20.0	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 14.2	△ 21.4
製　造	▲ 31.5	▲ 10.0	▲ 17.6	▲ 33.3	▲ 21.0	▲ 58.8	▲ 23.5	▲ 26.3
卸・小売	▲ 25.0	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 31.2	▲ 42.1	▲ 27.7	▲ 27.7	▲ 15.7
サービス	△ 26.3	▲ 20.0	▲ 4.7	▲ 17.6	▲ 5.5	△ 16.6	△ 16.6	△ 5.5



【仕入単価について】

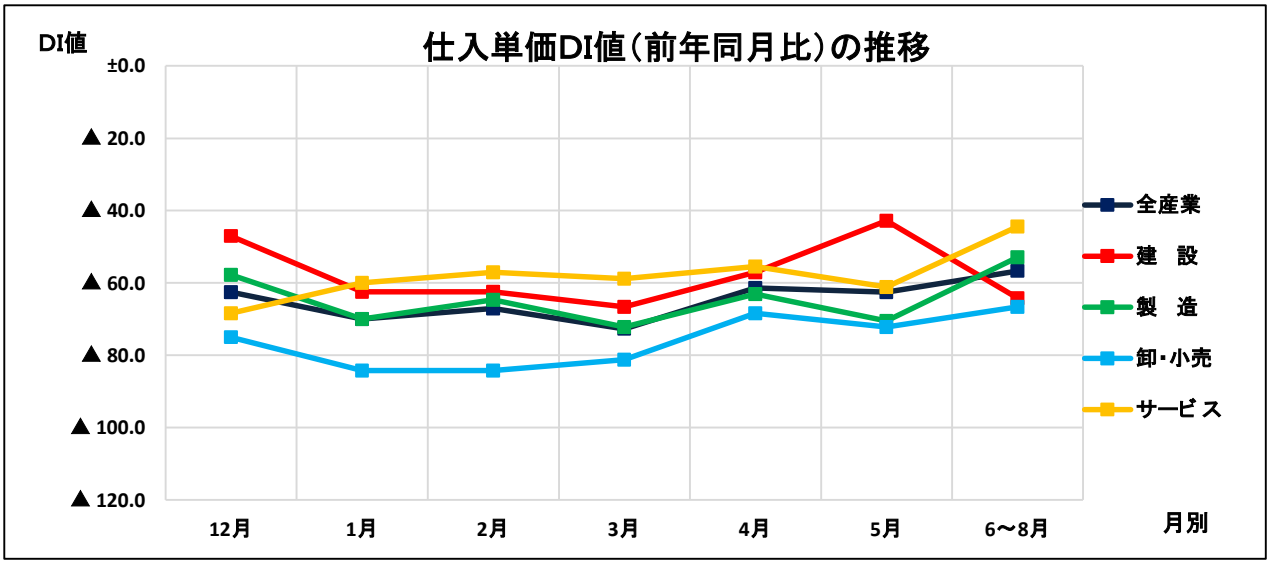
○ ５月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲６２．６（前月水準▲６１．４）となり、マイナス幅が１．２ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（６月から８月）の先行き見通しについては、全産業では、▲５６．７（前月水準▲５４．２）となり、マイナス幅が２．５ポイント拡大する見通しである。



仕入単価ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「下落」の回答割合－「上昇」の回答割合

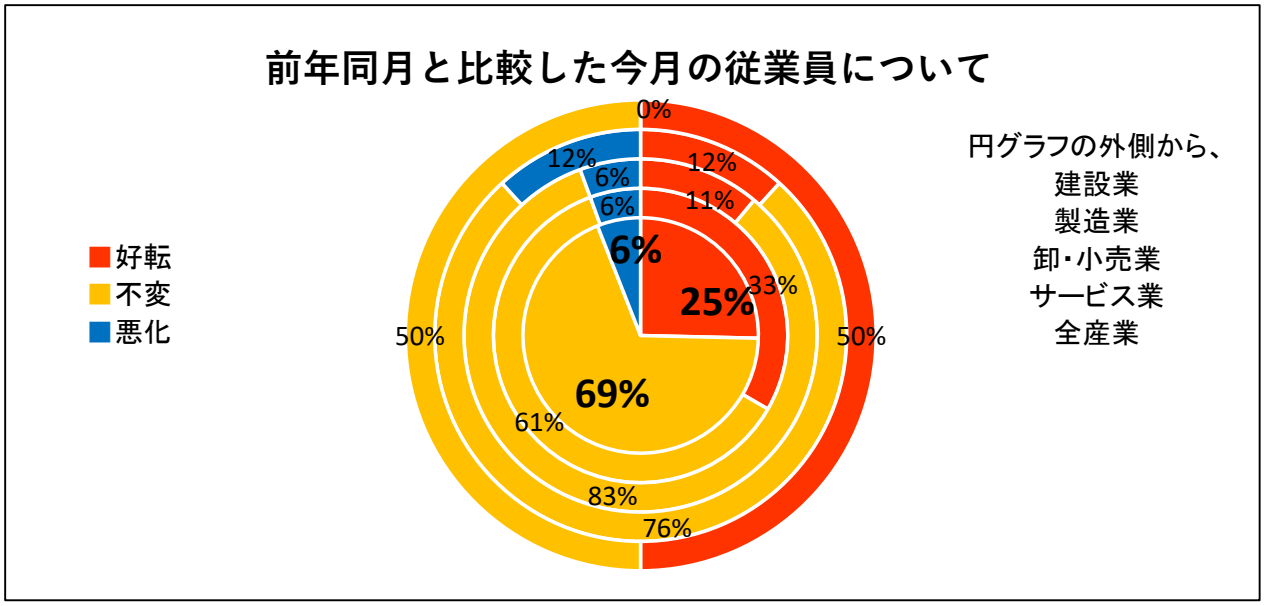
	令和６年 12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月	（ 5～7月 ）
全産業	▲ 62.6	▲ 70.0	▲ 67.1	▲ 72.7	▲ 61.4	▲ 62.6	▲ 56.7	（ ▲ 54.2 ）
建　設	▲ 47.0	▲ 62.5	▲ 62.5	▲ 66.6	▲ 57.1	▲ 42.8	▲ 64.2	（ ▲ 50.0 ）
製　造	▲ 57.8	▲ 70.0	▲ 64.7	▲ 72.2	▲ 63.1	▲ 70.5	▲ 52.9	（ ▲ 52.6 ）
卸・小売	▲ 75.0	▲ 84.2	▲ 84.2	▲ 81.2	▲ 68.4	▲ 72.2	▲ 66.6	（ ▲ 57.8 ）
サービス	▲ 68.4	▲ 60.0	▲ 57.1	▲ 58.8	▲ 55.5	▲ 61.1	▲ 44.4	（ ▲ 55.5 ）



【従業員について】

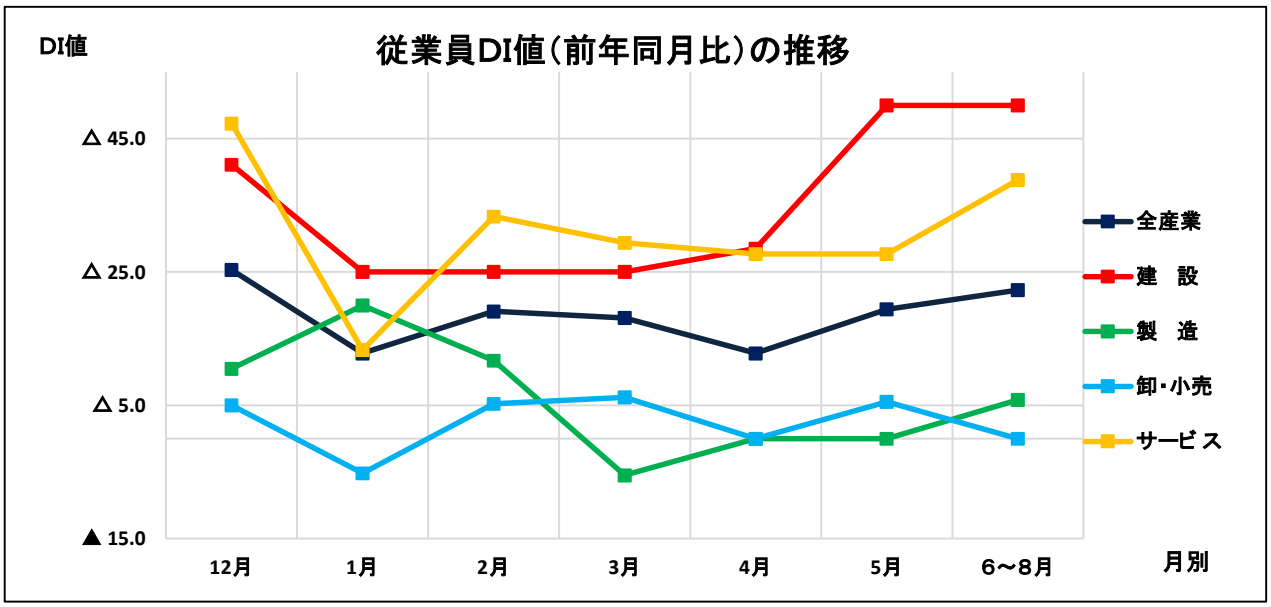
○ ５月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△１９．４（前月水準△１２．８）となり、プラス幅が６．６ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（６月から８月）の先行き見通しについては、全産業では、△２２．３（前月水準△２０．０）となり、プラス幅が２．３ポイント拡大する見通しである。



従業員ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「過剰」の回答割合ー「不足」の回答割合

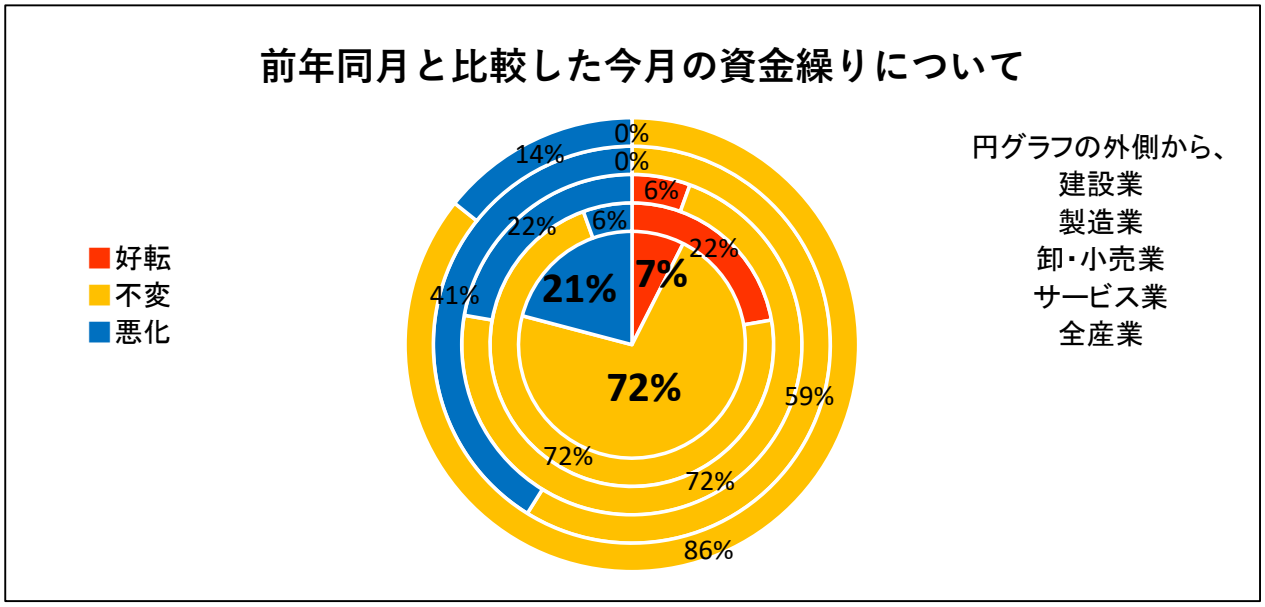
	令和６年 12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月（5～7月）
全産業	△ 25.3	△ 12.8	△ 19.1	△ 18.1	△ 12.8	△ 19.4	△ 22.3（△ 20.0）
建　設	△ 41.1	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0	△ 28.5	△ 50.0	△ 50.0（△ 35.7）
製　造	△ 10.5	△ 20.0	△ 11.7	▲ 5.5	±0.0	±0.0	△ 5.8（△ 5.2）
卸・小売	△ 5.0	▲ 5.2	△ 5.2	△ 6.2	±0.0	△ 5.5	±0.0（△ 15.7）
サービス	△ 47.3	△ 13.3	△ 33.3	△ 29.4	△ 27.7	△ 27.7	△ 38.8（△ 27.7）



【資金繰りについて】

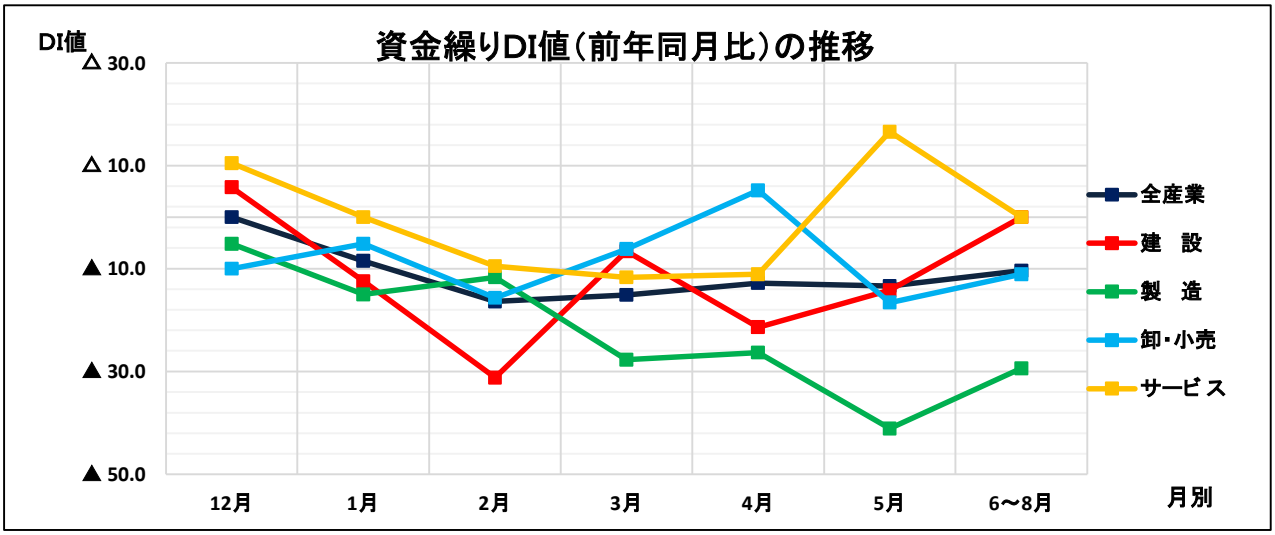
○ ５月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲１３．４（前月水準▲１２．８）となり、マイナス幅が０．６ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（６月から８月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１０．４（前月水準▲４．２）となり、マイナス幅が６．２ポイント拡大する見通しである。



資金繰りＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

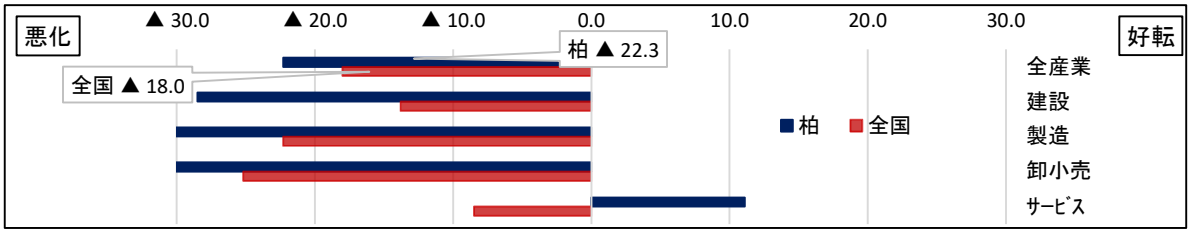
	令和６年 12月	令和７年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月	（ 5～7月 ）
全産業	±0.0	▲ 8.5	▲ 16.4	▲ 15.1	▲ 12.8	▲ 13.4	▲ 10.4	（ ▲ 4.2 ）
建　設	△ 5.8	▲ 12.5	▲ 31.2	▲ 6.6	▲ 21.4	▲ 14.2	±0.0	（ △ 7.1 ）
製　造	▲ 5.2	▲ 15.0	▲ 11.7	▲ 27.7	▲ 26.3	▲ 41.1	▲ 29.4	（ ▲ 36.8 ）
卸・小売	▲ 10.0	▲ 5.2	▲ 15.7	▲ 6.2	△ 5.2	▲ 16.6	▲ 11.1	（ △ 5.2 ）
サービス	△ 10.5	±0.0	▲ 9.5	▲ 11.7	▲ 11.1	△ 16.6	±0.0	（ △ 11.1 ）



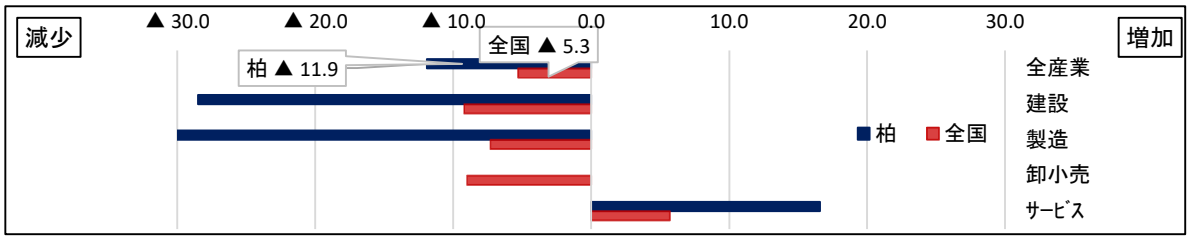
全国（ＣＣＩ－ＬＯＢＯ）との比較

【CCI－LOBOとは】
日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

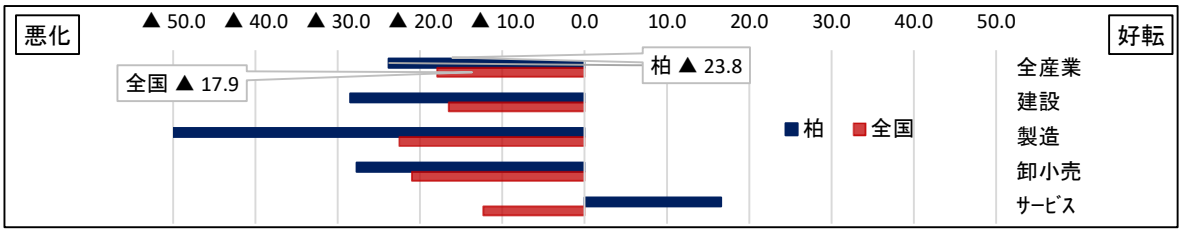
【業況ＤＩ】



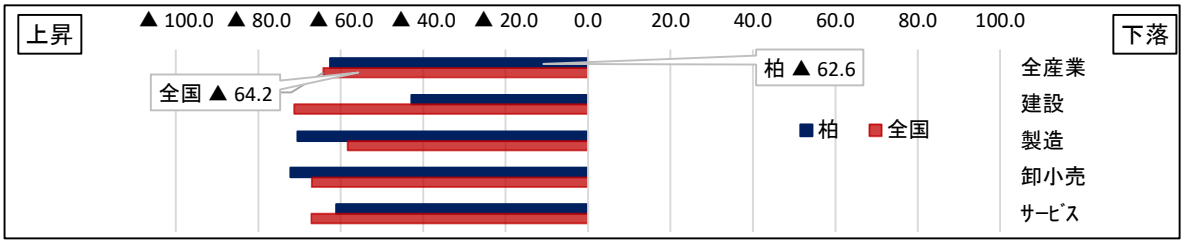
【売上ＤＩ】



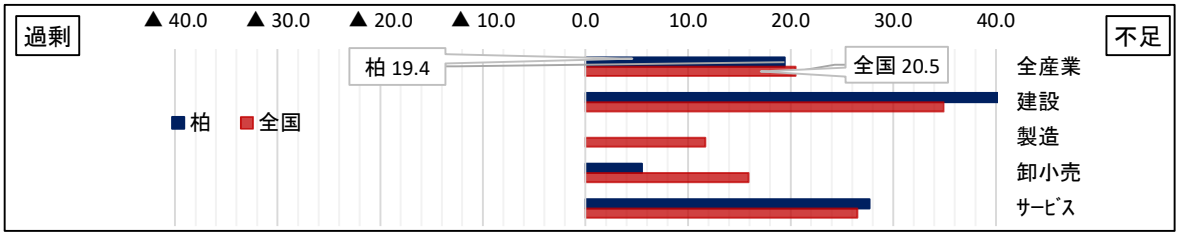
【採算ＤＩ】



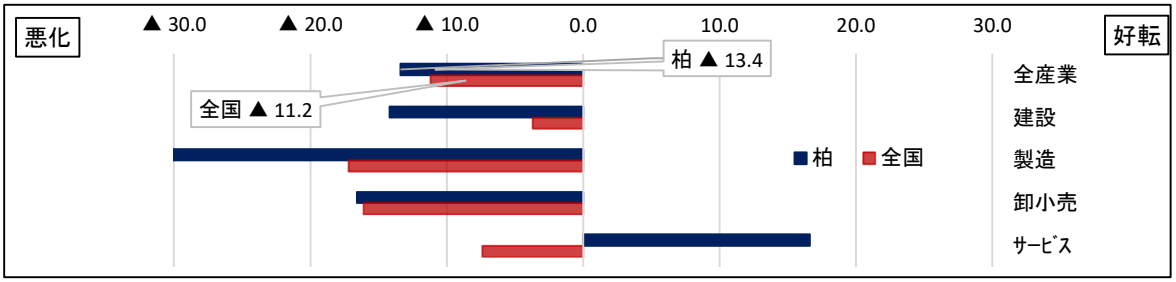
【仕入単価ＤＩ】



【従業員ＤＩ】



【資金繰りＤＩ】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概　　況	業種
建設業	畳縁販売が好調。	畳工事請負・畳製造販売業
	平均的な売り上げであったが、当面は大型公共事業関連業務で好転がみこまれる。国内の食料・エネルギー問題や国際情勢の不安定化に伴うコストの上昇はマイナス要因に注意が必要な状態が当面続くことが懸念される。一方で自然災害への企業として備えにも気を配る必要を感じている。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	トランプ関税の影響で先行き不透明な為に、設備投資の先延ばしが発生している。 大幅な賃上げにより企業の採算悪化が見込まれる。	一般産業用機械・装置製造業
	医療品容器の新企画が立ち上がるまでは低迷状態が続き、追い打ちをかけるように化粧品容器の状況は回復傾向が見られず苦戦が続く。	プラスチック加工
	・3~4月までは好調であつた求人応募が5月になって減少した。 ・関税問題についていまのところ事業所レベルでは具体的な影響なし。	酒類製造業
	法改正に伴い就業規則の見直しを実施。(介護休業等)合わせて従業員へ説明会を行う。介護で退職をしなくていいように会社も従業員も発信していこう。	金属製品
	売上は持ち直しているが、原料や副材料等の値上げにより、利益率は鈍い状況 全社挙げて、小さいところから地道に改善活動を実施	その他の鉄鋼業
	最近話題の「推し活」の分野ではグッズがよく売れているそうです。そしてあらゆるグッズには印刷技術が使われています。「自社はこれをやる会社だ」と決めつけず、価値ある印刷物を生み出すか、非常に重要になると思う。	印刷業
卸・小売業	売上は微増、一点単価の上昇は落ち着きつつあり、買上点数は回復傾向である。 人件費上昇は吸収できつつあり、退職者のカバー(新規採用)も進んでいる。 思った以上に気温が上がらず、前倒しにしている初夏物の動きは鈍いがようやくGW明けに動きが出ている。 柏市は3月に人口が微減したが4月・5月で大幅増加し、累計3ヶ月で1000人を超える増加である。 足元の人口も増加しており、今後3ヶ月は攻めの経営に転化していきたい。	大型小売店
	＊飲食店は仕入れ値の高騰が止まらず、採算の悪化傾向が続く。値上げにも限界。	その他の各種商品小売業
サー	柏市の東口の開発計画が見切り発車的発表で既存テナント様や募集テナント様についても多大な営業妨害を受けています。	不動産賃貸業
	関西万博については当初考えていたよりは評判が良い、その成果申し込みが徐々にではあるが増えてきている。 沖縄ジャングリアもマスコミ取り上げられ、夏休みの申込が期待できそう。	旅行
	資材の高騰や発注価格の値上がりが続いています。一般の不動産購入意欲も減少気味です。リフォーム需要は安定してあります。金利が上がっていますので、様子見のお客様が多くなってきています。	不動産管理業

【業種別】業界内トピックス

ビス業	管理コストの上昇に見合った賃料の増額を更新毎に御入居者さんにお願いするようになってます。	不動産賃貸・管理業
	GW明けからの集客落ちは著しい印象がある。また週末夜の利用減少と駅前人口の減少は著しく低下している気がする	専門料理店
	客単価は上昇しているが来場は微減。消耗品価格などが上がり続けており利益が圧迫されている。光熱費やガソリンに対するさらなる補助金を望みます。ムスリムが数名勝手に弊社敷地に入り、礼拝を行っていた。外国人による治安の悪化が身近になり従業員が不安がっている。	ゴルフ練習場

調査要領

回答期間　令和7年５月１９日　～　令和７年６月４日

調査対象　柏市内１７３事業所及び組合にヒアリング

＜業種別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全　産　業	173	67	38.7%
建　　設	38	14	36.8%
製　　造	44	17	38.6%
卸　・　小売	46	18	39.1%
サ　ー　ビ　ス	45	18	40.0%

調査方法と調査票

下記「質問Ａ」をＤＩ値集計し、「質問Ｂ」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問Ａ

質問事項	回答欄 前年同月と比較した今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算（経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問Ｂ 業界内のトピック（記述式）

※ＤＩ値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

ＤＩ　＝　（増加・好転などの回答割合）　－　（減少・悪化などの回答割合）

※ＤＩ値と景気の概況

DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振